

公立小学校教員・田中まさおさんの 残業を裁判所が「仕分け」

労働時間と認める

- 教室・学年ごとの掲示物の作成 [月30分]
- 翌日の授業準備 [1コマ5分]
- 朝自習の準備 [1回10分]
- 業者テスト採点 [1回60分]
- 週案簿の作成 [週30分]
- 学年花壇の草取り・管理 [月1回10分]
- 通知表の作成 [児童1人40分]
- 学年便りの作成 [1回2時間]
- 校外学習の準備 [1回3時間]
- 家庭訪問の計画表作成・実施 [1回3時間]
- 学級懇談会の準備 [1回2時間]
- 保護者のメール登録の確認 [1回1時間]
- 扇風機の清掃とビニール掛け [1回30分]
- エアコンスイッチ入切記録簿の作成 [月5分]
- 教室のワックスがけ [1回1時間]

AERA 2021年11月29日号より／※裁判の判決文別紙から、一部抜粋し作成

労働時間と認めない [教員の自発的行為]

- ✕ 教室の整理整頓
- ✕ 掃除用具の確認
- ✕ 落とし物の整理
- ✕ 教室の点検及び修理
- ✕ 掲示物のペン入れ
- ✕ 作文のペン入れ
- ✕ 教材研究
- ✕ 提出ドリルの内容確認
- ✕ ドリル、プリント、小テストの採点
- ✕ 授業参観の準備
- ✕ 児童の様子を教員で共有するソフトへの記入
- ✕ 保護者への対応
- ✕ 児童の授業ノートの添削
- ✕ 授業で児童が作成した発表物の添削
- ✕ 賞状の作成

裁判の判決文別紙から、一部抜粋し作成

AERA 2021年11月29日号より

- 増え続ける教職員の負担
- 正當に評価されない努力、労働
- PTAとはもともと
Parents and Teacher Association
(保護者と教師の組織)
双方の落とし所を探る場のはずが、保護
者が学校・教師に一方的に要求をする場
になっていないか

「教員の1日8時間労働の実現を」残業代裁判を起こした田中まさおさんが進める“働き方改革”とは

小学校3割超、中学は約6割の先生が過労死ライン超え

「教員にも残業代を！」と裁判を起こしたものの、2023年3月上旬、敗訴が決定した田中まさおさん（仮名）。同月末の記者会見では「第2次訴訟」にチャレンジすると宣言しましたが、実は裁判以外でも時間外労働を減らす活動が続いています。

時間外勤務を減らしたいと思い、20年3月にはアクションを起こすことにしました。校長や教育委員会に言っても、首を横に振られたらおしまいです。そこで私は、地元の市役所に訴えに行くことにしました。現役の教員が行政に訴えるのは容易なことではありません。相当な覚悟が必要です。私はそれでも自分の勉強だと思って決心しました。

市役所で紹介されたのは、「公平委員会」でした。私たち地方公務員が困っていることを解決してくれる場です。私の申し立てを公平委員が審査し、担当者が教育委員会と交渉してくれるとのことでした。

働き方が変わる？ 全国の教員のみなさんもトライを

公平委員会に申し立てたのは、われながらグッドアイデアでした。ただし問題は、自分が今いる学校しか変わらない心配があるということです。公平委員会は職員個人の苦情に対応する場所なので、私が勤務する学校限定で対策を促すと聞いています。そうすると、隣の学校にまで影響を及ぼすことはできません。公平委員会は全国各地の自治体にあるはずで、自分の学校の働き方を変えたい教員の方は、ぜひ相談してみるといいと思います。

もちろん、相談しても必ずうまくいくとは限らないでしょう。私が今いる学校は、校長が「時間外勤務は減らすべきだ」という私の考えを理解してくれています。また、私の裁判のことを知っているの、「法律を守らないというさく言われる」と思っているのかもしれませんが、いずれにしても試してみる価値はあると思います。

田中まさお支援事務局公式Twitter→<https://twitter.com/1214cfs>

↓以下の記事から抜粋

<https://fumufumunews.jp/articles/-/23759?page=3>

Fumufumu news

2023.04.11 取材／写真と文 牧内昇平